

第 2 回 向日市次世代育成支援対策地域協議会
会議録

開催日時	平成 21 年 9 月 16 日（水） 午後 1 時 30 分開会～午後 4 時 00 分閉会
開催場所	向日市役所 3 階大会議室
委員長	安藤委員
出席者	安藤委員、伊澤委員、風谷委員、佐土原委員、宮地委員、 吉岡委員、檜谷委員 （以上 7 名）
欠席者	前坂委員、小川委員
議事	（ 1 ）第 1 回向日市次世代育成支援対策地域協議会会議録について （ 2 ）向日市次世代育成支援対策後期行動計画骨子について （ 3 ）その他
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 第 1 回向日市次世代育成支援対策地域協議会会議録 ・資料 2 向日市次世代育成支援対策行動計画（前期計画）施策一覧 ～実績と評価～ ・資料 3 向日市次世代育成支援行動計画構成案 ・資料 4 向日市次世代育成支援対策行動計画 「むこう・元気っ子支援プラン」事業一覧（案） ・資料 5 向日市次世代育成支援行動計画 「むこう・元気っ子支援プラン」後期計画原案

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 の 要 旨
	(開会)
事務局	あいさつ
委員長	あいさつ それでは、次第に従って進めたい。 議事(1)については、本日の資料1として配布している。お目通し頂いたことと思うが、皆様のご承認を頂ければと思う。向日市次世代育成支援対策地域協議会の公開に関する要綱の第9条に基づき、この会議録の写しを情報公開コーナーにおいて閲覧する。いかがか。
事務局	資料1の7ページの上から2行目に委員名が入っている為、氏名を取り「委員」と訂正したい。
委員長	公開に関して、ご承認頂けるか。
委員一同	異議なし
委員長	それでは、ご承認頂けたものとして進めたい。 次に議題(2)について、事務局より説明願いたい。
	(2)向日市次世代育成支援対策後期行動計画骨子について
事務局	資料5に基づき説明 資料3に基づき説明 資料4『基本目標1』について説明
委員長	基本目標が全部で5つあり、一括に議論すると煩雑になるので、基本目標毎にご意見を頂きたい。 先ず基本目標1について、何かご意見等があればお願いしたい。
委員	No.38、39については、妊娠しているお母さん方に対するサービスはあるのか。全体的に思ったことは、例えば子育てフォーラム等は中央公民館が行

事務局	<p>っているが、本来は担当部署が持っているターゲットに向けての企画を行うべきである。中央公民館で行う意味があるのか。男女共同参画と言っても、一般的には分からない。現在の担当部署そのものに検討の余地があるのではないか。現場の問題なので、悩んでいるテーマ、不安を抱えている層に向かって働きかけるべきである。父親に対する刺激が弱いのではないか。</p> <p>市の市民参画課が一時的な担当として啓発やフォーラムを行ってきた。男女共同参画に対する意識啓発の講座は行っているが、ターゲットを絞った形では出来ていない。頂いたご意見は、市民参画課にも伝えて検討したい。</p> <p>No.38、39 は、[5]「子育てへの男女共同参画の推進」という大きなテーマの中の「男女共同参画についての広報・啓発等の充実」となっているが、現実的には子育てに絞ったものではなく、あくまでも広義での男女共同参画について市民みんなで考えていこうというものである。[5]のテーマには則していないかもしれないが、もっと若い世代も含めた、子育てに直結した講座ではない。ここに書いてあるように、中央公民館については平成 19 年度、20 年度は未実施である。</p>
委員	<p>逆に言えば、ここに挙げた以上はそこに向かう整備をしなければならない。数合わせになってしまう。</p>
委員長	<p>他にあるか。</p>
委員	<p>基本目標を 1 つずつ議論するのか。</p>
委員長	<p>資料 4 の基本目標 5 つの中の『基本目標 1 』について説明があったので、それについてのご意見等を頂きたいと考えている。1 つずつ片付けていきたい。</p> <p>よろしいか。最終的には全体を関係付けてお尋ねすると思うので、その時にまたご意見を頂ければと思う。</p> <p>引き続き、基本目標 2 について事務局より説明願いたい。</p>
事務局	<p>資料 4 『基本目標 2 』について説明</p>
委員長	<p>何かご意見はあるか。</p>
委員	<p>No.42 の「地域子育て支援センター事業」は保育所に限定されているが、幼稚園に通わせていると、保育所は敷居が高い。相談に行くのは、幼稚園である。それを大々的に広げると、その層を受けることが出来る。何故保育所だけに区切るのか、よく分からない。幼稚園も取り込むべきである。幼児教</p>

事務局	<p>育の視点がまだ確立されていない。本当に子育て支援センターを保育所だけに置いていいのか。</p> <p>子育て支援センターについては、保育所に3箇所と市の保健センターに事務所を置き、そこでも相談等を受けている。実際には市保健センター「すこやか」と、市立第1保育所「さくら」で活動を行っているが、当初の幼稚園との話し合いの経過は知らないが、おっしゃるように結果的に保育所のみになっている。今後の課題とを感じる。</p>
委員	<p>社会的ソースとして、幼稚園を使わない手はない。幼稚園の教諭達は、幼児の成長過程をきちんと見ている。検討するべきだと思う。</p>
委員	<p>保健センターの子育て支援センターが向日市全体という考え方をしていいるが、現実には、幼稚園までいっていないかもしれない。あと保育所に3箇所あるが、私が考えるには、「子育て支援センター」というからには、向日市全ての子育て関係を市として見ていくべきである。幼稚園児も含めた施策を、今後は行っていく必要がある。そういう意味で、幼稚園に協力願えるように働きかけないと、全体に渡らない。今後5年間はそういう要素も組み入れていけばいいのではないか。</p>
委員	<p>幼児教育センター的なものをつくることも、1つの案である。保育所の一環としてつくれば、保育所になってしまう。その辺りは広報関係も含めて検討して欲しい。</p>
委員	<p>センターも広報としては一般に呼び掛けているが、たまたまそうなっているのかもしれない。広報の方法もあるので、研究しながら進めて欲しい。</p>
委員	<p>馴染みもあるので、自分の子どもを知らない場所へ行って相談することは、なかなか出来ない。</p>
委員	<p>保育所と幼稚園で分かれてしまっていて、溝がある感じがする。市としては、子どもは全て同じである。幼稚園と保育所と市がタイアップしながら進めることが、今後は必要である。そういうことを計画に反映出来ればと思う。</p>
委員	<p>実行出来れば、本当に良くなると思う。</p>
委員	<p>今迄は、あまりにも市は幼稚園サイドに任せていた部分があったかもしれない。今後は協力していく必要がある。</p>

委員	特別支援の関係からも、そういう部分は大きい。
委員長	結局、システムを作っても利用されなければ意味がない。気持ちの上で使いやすいところがランチになっていく必要がある。新たに作るのではなく、既存の色々な子どもの生活の場を利用するのがいいのではないか。
委員	あまり財政支出しないようにしなければならない。
委員	現状の子育て支援センター「さくら」等の相談内容に、規定はあるのか。例えば、保健センター「すこやか」には、こういう相談に行ってくださいといった、場所によって相談内容の規定はあるのか。
事務局	基本的にはない。例えば、もし虐待等が絡んでいるのであれば児童相談所に紹介したり、健康上の問題であれば健康推進課に振ったりはしている。
委員	一応、総合的になっているのか。市民へはそういう形で広報しているのか。
事務局	そうである。「悩みごとがあれば」ということである。 4ヵ月健診で、子育てセンターの先生が直接母親へ子育て支援センターについて紹介している。
委員	私も小さい孫がいるのでよく分かるが、乳幼児を抱えている母親は色々な問題が起こると思う。何でも相談出来る場がたくさんあれば、一番身近な所に行ける。予算の問題等あると思うが、可能であればなるべく窓口を多くしたほうがいいのではないか。
委員	今のご意見と関連するが、向日市の場合は子育て関係の窓口がたくさんある。各事業でも、そこで保健師とお母さん、栄養士とお母さんが、必ず話し合いが出来るようになっている。改めて相談室へは相談に行かない。例えば、何か困ったことがあればセンターに連絡すれば整備してもらえる、といったことがまだ網羅されていない。色々なことが拾えるシステムにはなっているが、センター機能を充実させて欲しい。 ご家庭のライフスタイルによって保育所・幼稚園と選択されるが、事業によっては、幼稚園児の父兄が参加しているものもあれば、保育所の父兄が参加しているものもある。0歳～3歳までのどこにも属さない時期が一番大変だが、その受け皿が向日市にはたくさんあると思う。
委員	センター機能を持たせて、各ボランティア団体等も網羅出来るような情報センターにするとということか。

委員	<p>情報センターにしなくてもいいが、なかなかそういうものがない。向日市の場合は、自分で広報等を見て探さなければならない。悩みがあれば電話をして、交通整理をしてもらえる所があれば、助かるのではないかな。</p>
委員	<p>子育ての不安は親が抱え込んでしまい、その事実をなかなか認められない。認めないから施設に繋がられない。電話して支援制度に繋がってもらえるとすれば、それは自覚的で、社会にすぐに戻れると思う。新たに作るのではなく、子どもを通わせている既存の幼稚園や保育所に相談機能を持たせるのがいいのではないかな。</p>
委員	<p>新たにつくるのではなく、既存のものの機能を充実すればいいと思う。</p>
委員長	<p>幼稚園や保育所の先生方で対応出来ない問題の場合、専門機関に回す判断を現場に任すのか。</p>
委員	<p>それは出来ない。基本的には保護者に行く気がなければ、行かせられない。</p>
委員長	<p>今は出てこられる方を前提にしている。福祉事務所の家庭児童相談室の機能と児童相談所の機能は、それぞれ役割分担をしているが、そうではなく、診療所的な役割を幼稚園・保育所で担うことも必要になってくるのではないかな。市として、心理的な知識を持った人材の配置も必要になってくる。</p>
委員	<p>センターの役割を再度見直す必要がある。</p>
委員	<p>センターへ相談し難いので、京都市の児童館の子育てサークルに入っている方が多い。新しい駅が出来てマンションが建ち、そこに引っ越して来られた方が多いが、子育てに関する情報があまりにも少ないと聞く。マンションでも、隣以外は知らない。もっと気軽に行けるスーパー等に相談出来る場があればいいと思う。</p>
委員	<p>センターの概念をきちんと決めて、各窓口が自発的に出来ていて、センターがその情報を把握して振り分けることが出来ればいいと思う。</p>
委員	<p>何か困った時に最初にどこかに電話をしようと思うが、向日市の場合は赤ちゃん訪問で馴染みがあるので、保健師に電話される方が多いと思う。子育て支援センターは色々な事業をされていて、広報もされているが、気軽に行ける場所でも行けていない現実がある。気軽に電話した時に、次に繋がってもらえる機能がればいいと思う。</p>

委員	子育てに関する情報センターみたいなものか。
委員	京都市は、そういうセンターがきちんと機能している。
委員	広報等でPRはしている。例えば、資料2のNo.6「健康診査フォロー教室（1歳児教室、2歳児教室、たんぽぽくらぶ）」は、必ず来られる。子育て支援センターは保健センターにあるので、一体となって行えば情報源にもなる。今後PRの足りない部分は、充実していかなければならない。核家族が増えているので、気軽に相談出来る体制が必要だし、PRする方法も考えていかなければならない。
委員	向日市も今後転入者が増える可能性が高いと思う。地元住民はどこに行けばいいか分かって、転入者はなかなか分からない。若い転入者が多いと思うので、その辺りは配慮したほうがいいと思う。
事務局	子育てガイドや年間の健診予定、子育て支援センターの情報を各戸配布し、転入して来られた方には手渡ししている。
委員長	若い方はネットを使う人が増えている。紙媒体がオールマイティではないことを前提にしなければならない。紙だと捨ててしまえばなくなるが、ネットだとなくなる。情報は、今日必要じゃなくても明日必要になることもある。2重3重のPRが必要ではないか。 それでは、基本目標3について事務局より説明願いたい。
事務局	資料4『基本目標3』について説明
委員	これは仕方がないのかもしれないが、No.59、60は弱い。父親が育休制度を使わない状況を、何とか出来ないものか。延長保育事業を実施しなければならないのは、子育ての時期に企業が配慮してくれないからである。延長保育は子どもの成育にとって本当に良いのか。家庭が安定することが企業にプラスになるという啓発事業は出来ないか。 No.64、65は、ニーズがない。通勤に時間がかかる東京スタイルである。
委員	延長保育は今7時までだが、例えば大阪に通勤している方が5時過ぎに仕事が終わっても、帰って来るのは7時頃になる。本来の保育は4時までだが、それが6時になり、それでもまだ帰って来られない方がいるということで、1時間延びて7時になった。

委員	<p>休日保育も職種制限してはどうか。全域に広げると、レジャーの時に利用するケースが出てくる。</p>
委員	<p>休日保育も以前から計画にはあがっているが、難しい。休日保育をどう理解すればいいかである。</p>
委員	<p>子育ては本来家庭が軸にならなければならない。次世代育成で核となる部分まで崩れてしまっているのか。No.65 は削除してしまっていると思っている。</p>
委員	<p>No.65 の「一時保育事業」は要望も多く、本市では公立1箇所と私立1箇所しかないが、実際に市内の保育所の状況を見ると、他で一時保育を行うスペースがない。新しい保育所が出来れば考えられると思うが、現状で増やすことは厳しい。休日保育は、よく検討しないと難しい面がある。前期計画からあがっているが、未だ出来ていない。今のところ要望もそんなに多くない。</p>
委員	<p>ここは切ったほうがいいのではないかと。最近の傾向として怖いのは、幼稚園でも8時に出して帰って来るのが6時でも平気だということである。バスで1時間通園させている。社会が保育を保障してくれるから預けっぱなしで、家庭そのものが子育ての基本を失っている。お金を出せば子育てが出来るという安易な傾向があるように思う。それを助長するような関わりにならないのか。休日保育という事業を掲げることすら、抵抗感がある。自分達で子育てをしたいという人達が60何%いるのに、行政がそこを切り崩すようなことをしているのか。休日保育はレジャーの為というアンケートを見た時、ぞっとした。</p>
委員	<p>我々としても、しんどい部分という感じはしている。ここにも延長保育、病児保育、一時保育とあがっているが、向日市の場合育児休暇中は上の子どもは一旦保育所から出てもらい、職場に復帰された時は再度保育所に預けられることになっているが、市町村によって対応が違うということ、向日市の総合計画審議会の委員がおっしゃっていた。</p>
委員長	<p>育児休暇は、誰の為の育児かということである。上の子の育児の為ではなく、産まれてきた下の子の育児の為の休暇であるなら、上の子がいて下の子がいなければ育児休暇はもらえるのか、という理屈が出てくる。そこが市町村によって、休暇中は母親がいるから上の子も看れるということで、保育所から自宅に戻しているところがある。</p>
委員	<p>本市がそうである。例えば、来年小学校入学というお子さんについては、</p>

委員	<p>そのまま保育所に通えるが。</p> <p>確かに、子育ての中心は家庭だと言って子育て支援をしてこなかった状況があった。この状況が改善されたのは良いことだが、同時に、お金があれば解決出来るという安易な状況の中で、子育てに対する家庭の責任感が薄れている。それを助長する方向が本当に正しいのか。次の世代、社会形成に不安を感じる。幼稚園も保護者の理解無しでは出来ない。その保護者の価値観が違えば、今までのようにはいかない。</p>
委員	<p>この問題は、色々な考え方がある。どれが正しいのかは大変難しいと思うが、一番大切なことは、状況がそろえば親は自分で育てたいというのが基本だと思う。色々な経済環境や家庭環境等があり、やむなくそうするというのを、行政としては考える立場に立ってもらわないと、市民が安心して子どもが作れない状況になるのではないか。先程から出ているご意見は、全くその通りだと思うが、今の日本の企業はちょうど過渡期ではないか。従業員の為に子育て支援を行う企業が日本には全く無い訳ではない。幾つかはあるが、現状は新聞記事になるくらい少ない。例えば、子育て支援や男女共同参画に取り組む企業は税制上優遇する等、厚生労働省でも議論が出ている。ただ、これには時間がかかるので、今最も大事なものは、現状を見て、どれだけ市民を助けられるかといった観点で進めることではないか。そんなに長くこの状況が続くとは思っていない。必ず企業も色々なことを考えてくると思う。</p>
委員	<p>乙訓の企業でも数年前から全く進んでいない。</p>
委員	<p>ただ、中では議論はしているはずである。</p>
委員	<p>本当に家庭が踏ん張って子どもを育てるという意識が、以前より完全に少なくなっている気がする。</p>
委員	<p>私はそうは思わない。</p>
委員	<p>そこが感覚的に違う。ぞっとするような状況が現出している。一部を助ける為だけに全てに門戸を開いてしまうと、価値観が崩れていく。驚くほどの子どもに対する感覚の鈍さが出てきている。</p>
委員	<p>専門の先生がおっしゃることなので、そういうケースが多いのかと思うが、以前は家族も夫婦だけではなく、祖父母も含めた大家族の中で育ててきた。それが今は、夫婦二人で子育てしなければならない状況になってきた。</p>

委員	<p>片方が完全に子育てに専念出来るならいいが、両方が働かなければならない状況がある。そうなった時、誰に一部託すのか。第一に自分の親族が助けてくれれば一番良いが、それが難しければ、地域社会が助けないと子どもを産む家族は増えない。安心出来るネットワークが出来ていれば、これから徐々に世の中は変わっていくのではないか。</p> <p>私も親御さんの子育てについては危機感を感じるところがあるが、『特別保育事業』は保育所等の施設内で保育することを前提に考えられているのか。結局いつまで経っても出来ないのではないか。確かに、休日保育のニーズは少ないが、民間レベルでは休日預かりも行っている。遊びに行く為ではなく、冠婚葬祭や急な出勤等やむを得ない場合がある。私達民間の保育サポーターグループでは、そういう時にご自宅に出向いたり、自分の家に来て頂いて見るということは、もう何年も前から行っている。</p> <p>延長保育についても、長時間子どもが施設にいて良いのかという思いは私もあるが、ファミリーサポートが迎えに行き、保護者が帰宅するまで自宅で預かるということも今は多い。ファミリーサポートセンターは有償ボランティアなので、スタンスとしてそれで良いのか疑問に思っている。自宅で預かるにしても、きちんとした制度のもとで預かるべきである。いつまでもボランティアで良いのか。やむを得ず夜8時まで延長保育で預ける場合、夕食の問題がある。私達のグループでも夕食を提供している人もいれば、何時になっても夕食は提供しないという人もいる。長時間子どもを施設の緊張状態に置くのではなく、少しほっと出来るような環境も含めて考えていければ、休日保育も可能になってくるのではないか。ただ、ファミリーサポートセンターは、土日は窓口繋がらない。よく私達のグループに連絡がくる。少数派だからといって、そこを削るのは違うのではないか。方法を考えれば、やり方はあるのではないか。民間やボランティアに任せきりではいけない。</p>
委員長	<p>色々なご意見を頂いた。</p> <p>就学前保育と学童保育は、どう繋がっていくのか。休日保育、延長保育、一時保育といったことが、学童保育では話題になるのか。就学前はこうだが、1年生になった途端に違うというふうにはならないのではないか。それも拡大して考えて頂きたい。</p> <p>それでは、基本目標4について事務局より説明願いたい。</p>
事務局	資料4『基本目標4』について説明
委員長	何かご意見はあるか。
委員	No.71、72 に何故自然に対する配慮がないのか。アンケートの向日市に住

委員長	<p>みたい理由の中に「自然が充実している」という回答がある。住みたくない理由の中にも「自然」が入っている。このアンケート結果から、子ども達が安全に遊べる場所として、自然整備を考えるべきではないか。全然自然が入っていない。特にはりこ池の問題は、市内でも問題になっている。</p> <p>もう1つは、竹の径があまりにもきれいに整備されているのに、昼間は怖くて行く人がいない。対策を何か考えるべきである。そう考えると、それ程投資しなくても、出来る部分はある。神社で遊ぶ等、自然の遊びの設定を作らなければならないのではないかと。自然整備を通して、魅力ある遊び場作りの推進が何故組み込まれないのか。</p> <p>資料4の5 - [3] 「まちの歴史や自然、文化に親しむ機会の充実」で触れられているのではないかと。</p>
委員	<p>遊び場の充実という点で触れて欲しい。子どもの遊び場が今はない。公園等ではなく、向日市らしい子育て資源はないのか。自然と住居が一体になった環境が整備されれば、住みやすい。</p>
委員長	<p>これを見ていると、「安全・安心」の名の下に、囲い込みになっている。</p>
委員	<p>せっかく勝山公園があり、はりこ池があり、竹の径がある。これらの社会的資源を使わない手はないと思う。向日市の自然を守る会等のボランティアとジョイントして、子ども達を遊ばせる機会を作る等出来ないか。</p> <p>それから No.84 の「通学路安全対策」では「通学路の危険箇所交通指導員を配置し～」とあるが、市民の道路の使い方がなっていない。平気で通路に植木鉢や自転車を置いている。道路に向かってプラスチックの尖った物が飛び出していて、ちょうど子どもの目の位置なので危険な為、警察に調査を依頼したが、敷地内の為注意出来ないと言われた。道路行政は、歩行者が安全に通れる為の広報や指導が必要ではないか。安全を守る為には、少し踏み込む勇気を持って欲しい。安全に子どもが通れる道路状況を現出して欲しい。パトロールしてくれる人材が必要だと思う。今必要なのは、ハード面ではなくソフト面ではないか。</p>
委員長	<p>車椅子がどこでも通れるように、地域の探索隊がマップを作ったこともある。道路安全パトロール隊のようなNPO団体も考え方としてはあるのではないかと。</p>
委員	<p>お母さん達が、通園の危険箇所のマップを作っている。それを警察に提出しているが、実行してくれない。</p>

委員長	それが全市的になればいい。
委員	幼稚園の通園箇所だけではなく、全市的にすればお母さん方は協力してくれると思う。行政が対応してくれれば変わって来ると思う。
委員長	歩きタバコも、子どもの目の高さで危険なのでやめましょうということが広がった。皆がそういう気持ちになれば、一步でも半歩でも安全に近づく。世論にする為には、全市的にすることがスタートではないか。
委員	その関わりをどこかでやって欲しい。
委員長	不審者の発見のように、危険なものの発見というのは流れの中で出てくると思う。 他にないか。
委員	市民プール等、スポーツ施設への交通機関があまりにも少ない。自家用車がなければ行けない。例えば、車椅子のお子さんをお持ちのご家族にとって、正直、向日市は住み難い環境だと思う。役所もスロープが急で、手漕ぎでは登れない。通路にはみ出して物が置かれていると、車椅子は車道にはみ出して通らざるを得なくなり、車に接触しそうになる。 公共の交通機関が充実していることは、子育てにとっては有効的だと考えている。整備されれば、市の活性化にも繋がる。
委員	確かに、向日市は道路が狭い。広げようにも、広げる手段がない。様々な問題点を解決するのは行政だと思うが、今一番頭が痛い問題である。障害者やお年寄りが住みやすい町というのが、本来「住んで良かった」と言えるところではないかと思うが、なかなか難しい。今後、総合計画の中で前向きに検討しなければならない。遊び場の整備もそうだが、市民のご意見を聞きながら進めていかなければならない。
委員長	この流れで言うと、数年前に障害者の方が病院へ通うのに費用がかかりすぎる為、国交省が運転ボランティアシステムを自治体で導入するように言ったことがある。
委員	本来は各市ですが、今年度から2市1町が協力して、タクシー会社等色々な事業者も含めて協議会的なものをつくっている。タクシーでなくても、登録して許可された車は送迎が出来るように話しを進めている。福祉タクシーチケットという制度で、障害の程度によって年間12,000円のタクシーチケットを配布し、出来るだけ障害者の方も外に出掛けられるようにして

	いるが。
委員長	何故機能しないのかと思う。制度やシステムがあっても活用されていない。情報が行き渡っていないズレがあるのではないか。
委員	子育て中のお母さんの交通手段は、自転車である。自転車が通り易い道という視点で整備して欲しい。全市的に道路の私物の撤去は、そんなに費用をかけなくても出来るのではないか。既存の道路を整えるだけである。不法ではなくても迷惑がかかるというところに、切り込んで欲しい。
委員	先程おっしゃったように、警察でも手が出せないとなると、なかなか手が出せなくなる。市民に訴えるしか出来ない。
委員	警察は行政なら出来ると言うが、行政は警察が手を出せないなら出来ない。道路を整備する費用がないのであれば、きちんと運営することに責任を担って欲しい。
委員長	それでは、最後の基本目標5について事務局より説明願いたい。
事務局	資料4『基本目標5』について説明
委員長	基本目標5について、ご意見を頂きたい。
委員	No.116、117の「おはなし会」と「おはなしひろば」を図書館だけで行うのではなく、場所をもう少し拡張出来ないか。ボランティア団体と提携して、公民館等でも行うべきではないか。2歳～4歳までの子どもが本を読んでもらうと、言葉の感覚が充実すると言われている。そういう意味で、読み聞かせはとても大事である。
事務局	ほとんどの学校で、図書館のボランティアはPTAがやっている。低学年を中心に、学校ではかなりの時間数読み聞かせを実施している。
委員	読書の時間に自分で読んでいるのではないのか。
事務局	自分で読んでいる時間と、PTAのボランティアによる読み聞かせと両方やっている。
委員	自分で読んでいる時間を、先生が下手でもいいので読み聞かせをすると、かなり変わる。読み聞かせにポイントを置いて出来ないか。大人が声を出し

	<p>て絵本を読むことを通して子どもと交流し、子どもは言葉に対するイメージや物語に対する感覚を広げていく。これは大人にも有効で、老人ホームで読み聞かせをすると、すごく生き生きする。図書館だけに限らず、学校も含めて色々な場所ですればいい。ここに書くことによって、意識が生まれる。意識を啓発することも、行政の役割である。</p> <p>はりこ池、勝山公園、竹の径のことも書くべきである。</p>
事務局	<p>竹の径については、トイレや照明の設置を含めて色々な検討を行った。農地の為、色々な壁があり、中断しているのが現状である。産業振興課等で色々なプランは持っている。</p>
委員	<p>それなら、載せればいい。</p> <p>竹の径については悪くないと思うが、はりこ池は少し山に入ると荒れている。それを整備すれば、子どもの遊び場になると思う。勝山公園も、もう少し整備すればいいのではないか。子育て環境には自然がなければならぬ。その自然を作り出す必要がある。</p>
事務局	<p>おっしゃっていることは、各担当課が今までにも検討している。今日のご意見は、再度担当課に伝えたい。</p>
委員	<p>自然が存在している事実を認識して欲しい。ボランティアを行政が活用して、そこに子ども達を巻き込んでいけば、良い環境になると思う。</p>
委員	<p>市でやっているフリースクールはあるのか。</p>
事務局	<p>不登校の児童・生徒への対応として、本市の場合は適応指導教室『ひまわり広場』と呼んでいるが、天文館の一室をお借りして月・木・金の午前中に大学院生を指導員として雇い、指導教室を実施している。今のところ1週間カバー出来ていないが、当初週2日でスタートしていたものを3日に拡充しながら進めている。</p> <p>スクールカウンセラーについては、各中学校に1名ずつと、向陽小学校に1名、それぞれ週8時間入ってもらっている。スクールカウンセラーが配置されていない学校についても、配置されている中学校に連絡を取り、行ってもらっている。</p>
委員	<p>適応指導教室に行くことによって、不登校の出席に繋がるようにしているのか。</p>
事務局	<p>適応指導教室に来ている子どもはほぼ全欠している場合が多いが、学校に</p>

	<p>完全に復帰した子、中学3年間学校には通えず適応指導教室にずっと通っていた子、様々あるが、学校に復帰出来ることを大きな目標としながら、スクールカウンセラーや担任との連携会議等、色々手立てを打ちながら進めている。適応指導教室に通うことが心地良いということが大きなきっかけになるが、そこに留まらず、学校に繋げていけるようにしている。例えば、スクールカウンセラーに天文館に来て頂き相談の場を作る等、個々の状況に応じて保護者や学校と相談しながら対応している。今年度入ってから、適応指導教室に通っていた小学生が1人学校に完全に復帰した。昨年度までずっと適応指導教室にしか通えなかった子が中学校に通い始めている等、改善事例もあるが、なかなか改善出来ない子もある。</p>
委員	<p>私もあまり学校に行ってなかった。中学校の頃は、保健室へ登校していたが、このような話を聞いたことがなかった。その頃にはなかったのかも知れないが。</p>
事務局	<p>5年前にはあった。</p>
委員	<p>スクールカウンセラーにもお会いしたが、どうしても私は合わなかった。学校にあまり通えず、基礎学力のないまま高校に上がってしまったので、折角高校に行って頑張ろうと思っても、続かない。居心地が良い悪いだけではなく、学習面や心理的なフォローが少ないのではないかと。京都市は、1つの施設に何人ものカウンセラーがいて、自分と合う人を見つけられる。フリースクールも行けば、学校に報告が行って出席にしてもらえる。小学校の間は関係ないが、中学校になると高校進学のための内申書が必要になってくる。そういう考慮も必要である。色々な方向から見て、市としてもっと動いて頂きたい。</p>
委員長	<p>他にあるか。</p>
委員	<p>今のお話しの続きで、スクールカウンセラーは各中学校に1名ずつ、1つの小学校に1名ということだが、心のふれあい相談員は1つの中学校にしかいない。不登校の場合は色々なケースがある。適応指導教室がいい場合もあれば、別室がいい場合もある。心のふれあい相談員は、別室の子ども達へ対応しているので、出来れば全ての学校に配置して欲しい。スクールカウンセラーも、1週間に1回しか来られない。予約制で親子でカウンセリングを受けるが、時間数も少ない。予算の関係もあるかもしれないが、もう少し時間数も増やして欲しい。悩みを抱えて苦しんでいる子ども達が増えて来て、そういう子どもを持つ家庭も大変なので、乳幼児期もすごく大事だが、前期から思春期の子ども達への対応がなかなか来ていないし、費用もかけられて</p>

委員	<p>いない。その辺りの充実も考えて頂きたい。</p> <p>保健室登校の子が増えていて、知りあい的小朋友さんもそうだが、勉強を全然見てもらえないとのことで、そういう子ども達を受け入れてくれる私立の高校を探すと聞いた。勉強面のフォローもしてあげて欲しい。</p>
委員長	<p>他にないか。</p> <p>それでは、基本目標5についてはこれで終了したい。</p> <p>本日のご意見を踏まえて、次回には行動計画素案が提示されると思う。素案には、今後5年間の具体的に目指していく方向が打ち出されると思う。引き続き、積極的な議論をお願いしたい。</p>
委員	<p>新規事業についてはしないのか。</p>
事務局	<p>資料4の水色の部分で、既に実施している事業である。それについて振り返りをあげている。</p>
委員	<p>基本目標1の「食育の推進」の中に、今幼稚園や学校では野菜を育てて食べるということを実施しているが、そういう部分を加える気はないのか。</p> <p>基本目標1の2「家庭での子育てを支えるために」の「保護者に対する子育て学習機会の充実」は中央公民館で行っているが、幼稚園や保育所等で出来るのではないか。</p>
事務局	<p>食育は既に行っていることもあり、「保育所・学校における食育の推進」に組み込んだ。2番目以降については新規事業として資料4に新たな項目として水色で入れている。</p>
委員	<p>継続ということか。</p>
事務局	<p>そうである。</p> <p>食育については、食育計画を今年度中に策定する。赤ちゃんからお年寄りまで、市全体の計画として考えているので、おっしゃったことも含めてそちらで検討していきたい。</p> <p>中央公民館で実施している子育て学習機会だが、幼稚園等で実施することは状況によっては不可能ではない。</p>
委員長	<p>他にないか。</p> <p>それでは(3)その他で、次回日程案について事務局から提案があればお願いしたい。</p>

事務局	<p>(3) その他</p> <p>次回は、素案の原案と本日のご意見を踏まえて骨子をお示ししたいと考えている。日程は11月19日か20日をお願いしたいが、いかがか。</p> <p>では、11月19日の午後1時30分からお願いしたい。</p>
委員長	<p>本日の会議はこれで終了させて頂く。長時間に渡るご審議ありがとうございました。</p> <p>(閉会)</p>